

【事業の経緯】

別添資料1

河川-1 須川川総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H10)	事業採択後 10年経過	S53	H36	18.5	2.98	・工事延長 L=1300m ・河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、 橋梁架替等
第1回審議 (H17)	再評価後 5年経過	S53	H36	22.0	2.50	・工事延長 L=900m ・河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、 橋梁架替等
第2回審議 (H22)	再評価後 5年経過	S53	H36	22.0	2.35	・工事延長 L=900m ・河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、 橋梁架替等
第3回審議 (H27:今回)	再評価後 5年経過	S53	H36	22.0	2.37	・工事延長 L=900m ・河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、 橋梁架替等

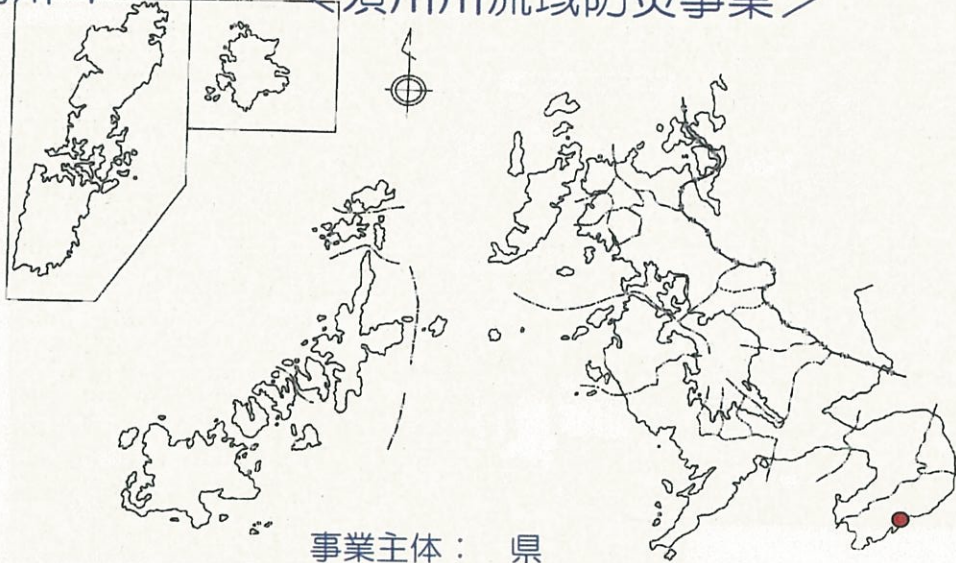
チェックリストによる河川事業の再評価項目

河川名	須川川	事業名	総合流域防災	事業区間	河口～国道須川橋 L= 900m	
再評価の実施理由		再評価後5年経過(再々評価)				
未着工或いは事業が長期間要している理由		人家密集地における支障物件等が多く、橋梁等の構造物も多い工事のため。また、用地交渉に時間を要しているため。				
事業内容	事業目的	洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する。				
	事業実施内容	河道拡幅、護岸整備、橋梁架替等				
	上位計画における位置づけ	長崎県長期総合計画2-2-4(自然災害のない安全な県土づくりの推進)				
目標流量		60m ³ /s	治水安全度		1/30年	
事業の進捗状況	事業採択年	昭和53年	用地着手年	昭和56年	工事着工年	昭和61年
	全体事業費(内用地費)	22.0億円(2.6億円)	投資事業費(内用地費)	12.9億円(進捗率 58.8%) 2.1億円(進捗率 80.7%)		
	事業進捗状況	河口から1号落差工上流までの約460mが完成				
	一連の整備効果の発現状況	河口から1号落差工上流までの約460mは、計画の流下能力を確保している。				
事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	事業を促進し、早期完成を図る。(H36年度完成予定)				
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)					
	① 浸水戸数	: 98戸				
	② 農地浸水面積	: 2.2ha				
	③ 重要な公共施設等	: 特になし				
	④ 災害弱者関連施設	: 特になし				
	⑤ その他	: 国道251号				
	過去の災害実績					
	① 主な被災年	: 昭和47年、昭和55年、昭和57年				
	② 最大浸水戸数	: 50戸(昭和47年)				
③ 最大農地浸水面積	: 16.8ha(昭和47年) *流域外周辺を含む					
④ 重要な公共施設等	: 郵便局(昭和47年)					
⑤ 災害弱者関連施設	: 幼稚園、各種病院、保育所(昭和47年)					
⑥ その他	: 国道251号、島原鉄道(廃線)					
災害発生の危険度						
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合	: 約25%					
② 現況の治水安全度	: 1/2未満					
地域の状況	① 地域開発の状況	: 地域開発は特にないが、須川川沿川の旧西有家町役場が、新たに南島原市役所となり、旧8町の業務が集中する施設となった。				
	② 地域の協力体制	: 南島原市を主体とした協力を得ている。				
	③ 関連事業との整合性の変化	: 特になし。				
	④ 地域の事業に対する社会的評価	: 洪水氾濫被害に対する安全の確保のため、河川改修事業の早期完成が望まれている。				
	⑤ 事業の状況	: 一部用地取得の遅れにより事業が長期化しているが、未改修区間については流下能力が低く、周辺住家の浸水被害の危険性が高いため、交渉を継続し、理解を得たうえで整備を進めていく。				
費用対効果分析	「治水経済調査マニュアル(案):平成17年4月」に基づき分析					
	総便益(B):	10,806 百万円				
	総費用(C):	4,562 百万円				
	B/C=	2.37				
再評価による今後の対応方針	事業継続					

一括審議

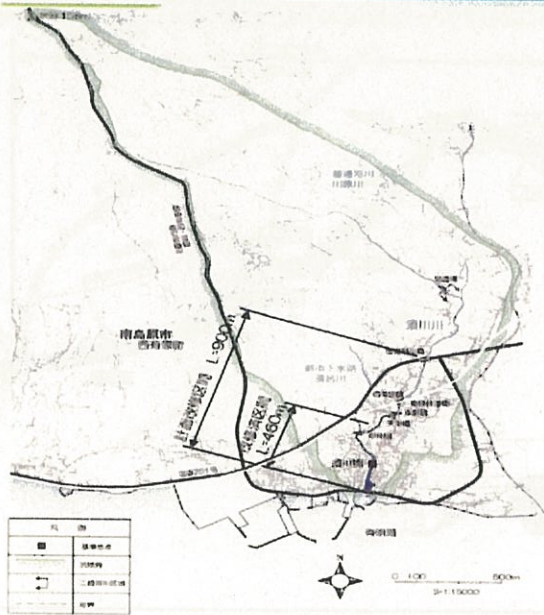
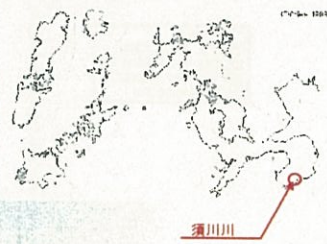
河川-1

＜須川川流域防災事業＞



事業主体： 県
事業箇所： 南島原市

1. 須川川位置図

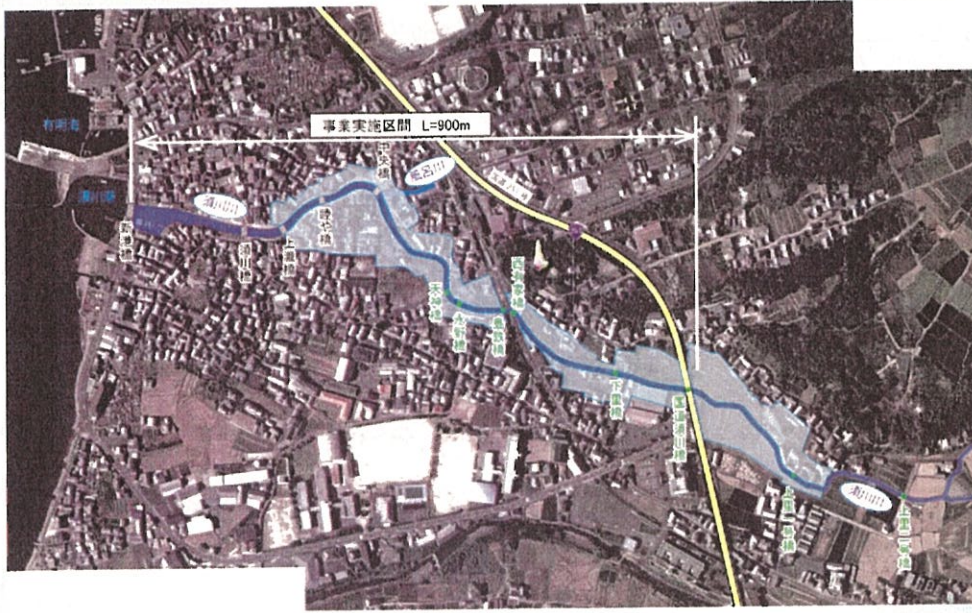


流域面積 : 2.3km²
幹川流路延長 : 1.4km

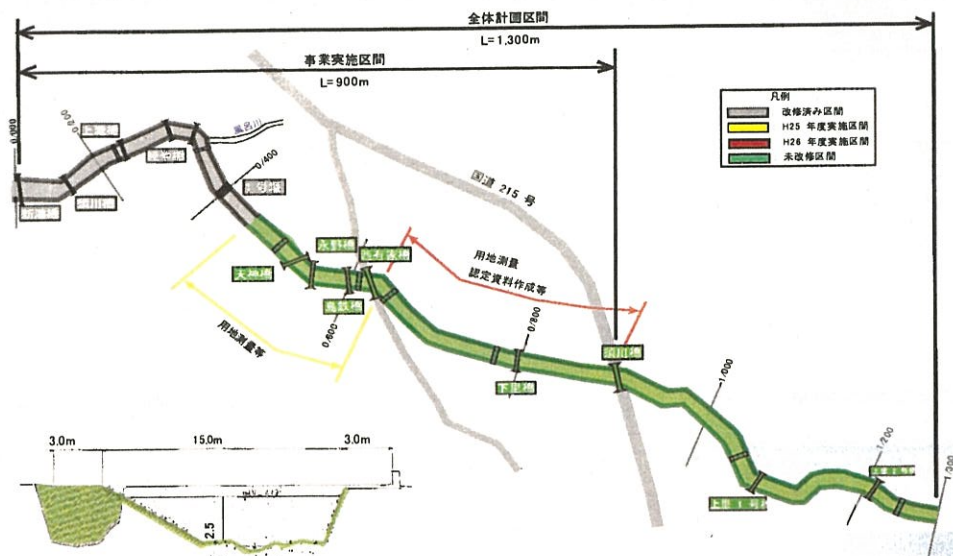
凡 例	
■	境界
—	河川
—	道路
—	境界



2. 須川川全景写真



3. 須川川平面図



【事業の経緯】

別添資料1

河川-2 佐護川総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H10)	事業採択後 10年経過	S59	H25	23.8	1.22	・工事延長 L=3,450m ・河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、 橋梁架替等
第1回審議 (H15)	再評価後 5年経過	S59	H25	41.0	2.59	・工事延長 L=3,450m ・河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、 橋梁架替等
報告(H17)	整備計画策定	S59	H25	41.0	2.59	・工事延長 L=3,450m(L=5,750m、中山 川L=1,100m) ・河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、 橋梁架替等
第2回審議 (H22)	再評価後 5年経過	S59	H28	45.0	2.26	・工事延長 L=3,450m ・河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、 橋梁架替等
第3回審議 (H27:今回)	再評価後 5年経過	S59	H38	83.6	1.69	・工事延長 L=5,750m 中山川 L=1,100m ・河道拡幅に伴う河床掘削、護岸整備、 橋梁架替等 ・工期をH38年まで延長

チェックリストによる河川事業の再評価項目

河川名	佐護川	事業名	総合流域防災	事業区間	河口(-0k550~No.5k200) L=5,750m 中山川 合流点(0k000~1k100) L=1100m
再評価の実施理由		再評価後5年経過(再々評価)			
未着工或いは事業が長期間要している理由		用地取得及び関係機関(土地改良区等)との調整に時間を要したため。			
事業内容	事業目的	洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する。			
	事業実施内容	河道拡幅、護岸整備及び橋梁架替等			
	上位計画における位置づけ	長崎県長期総合計画2-2-4(自然災害のない安全な県土づくりの推進)			
事業の進捗状況	目標流量	780m ³ /s	治水安全度	1/30年	
	事業採択年	昭和59年	用地着手年	昭和59年	工事着工年 昭和59年
	全体事業費(内用地費)	84億円(2.77億円)	投資事業費(内用地費)	40.1億円(進捗率 47.7%) 1.45億円(進捗率 52.33%)	
	事業進捗状況	河口から大岩橋(L=2.4km)上流までの河道拡幅完了(河床掘削残)。			
	一連の整備効果の発現状況	大岩橋上流部までの拡幅において、概ね計画流量の約60%の流下能力が確保されている。			
事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	事業を促進し、早期完成を目指す。(平成38年度完成予定)			
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)				
	① 浸水戸数	: 244戸			
	② 農地浸水面積	: 98ha			
	③ 重要な公共施設等	: —			
	④ 災害弱者関連施設	: —			
	⑤ その他	: 主要地方道佐護湊井口浜線、市道恵古湊線、国道382号線			
	過去の災害実績				
	① 主な被災年	: 昭和60年、平成22年			
	② 最大浸水戸数	: 333戸(S60年6月)、45戸(H22年7月)			
③ 最大農地浸水面積	: 164ha(S60年6月:整備区間外含む)、55ha(H22年7月)				
④ 重要な公共施設等	: —				
⑤ 災害弱者関連施設	: 佐護へき地保育園、佐護小学校、佐護中学校				
⑥ その他	: 主要地方道佐護湊井口浜線、市道恵古湊線、国道382号線				
災害発生の危険度					
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合	: 約20%				
② 現況の治水安全度	: 1/2未満				
地域の状況	① 地域開発の状況	: 河川周辺は平成11年度にほ場整備事業による農地整備が完成し、山地の多い対馬における有数の穀倉地帯となっている。			
	② 地域の協力体制	: 対馬市を主体とした協力を得ている。			
	③ 関連事業との整合性の変化	: 特にない。			
	④ 地域の事業に対する社会的評価	: 洪水氾濫被害に対する安全の確保のため、河川改修事業の早期完成が望まれている。			
	⑤ 事業の状況	: H22年7月洪水に甚大な浸水被害を被ったことから、佐護川上流2k900~5k200、支川中山川1k100区間の事業延伸をしたことから、事業量が増えたことにより完成が平成28年度から平成38年度に延びた。			
費用対効果分析	「治水経済調査マニュアル(案):平成17年4月」に基づき分析				
	総便益(B):	21,194 百万円			
	総費用(C):	12,521 百万円			
	B/C=	1.69			
再評価による今後の対応方針		見直し継続			

長崎県公共事業評価監視委員会

佐護川総合流域防災事業



1. 佐護川位置図



2. 佐護川全景写真



3. 佐護川の水害

佐護川既往洪水被害状況

発生年月	浸水戸数	浸水面積	時間最大雨量
昭和60年6月 22日	50戸(床上) 283戸(床下) ※町全域の浸水戸数	164 ha ※町全域の浸水面積	44mm(確率1/3相当) (6/23 10:00~11:00)
平成17年7月 15日	0戸(床上) 5戸(床下)	20 ha	76mm(確率1/20相当) (7/15 10:00~11:00)
平成22年7月 11日	20戸(床上) 25戸(床下)	55 ha	73mm(確率1/20相当) (7/11 2:40~3:40)

出典：S60.6.22 対馬市防災会議「対馬市地域防災計画—基本計画編」
 時間雨量は気象庁HP 気象統計情報 より
 H17.7.15 長崎県対馬振興局 被害情報 より
 時間雨量は気象庁HP 気象統計情報 より
 H22.7.11 長崎県資料 出水様式-2被害情報(国・都道府県河川管理)
 :佐護川資料 より

4. 佐護川の水害

浸水状況 (平成17年7月洪水)



2k300右岸 井口大橋付近

浸水状況 (平成18年7月洪水)



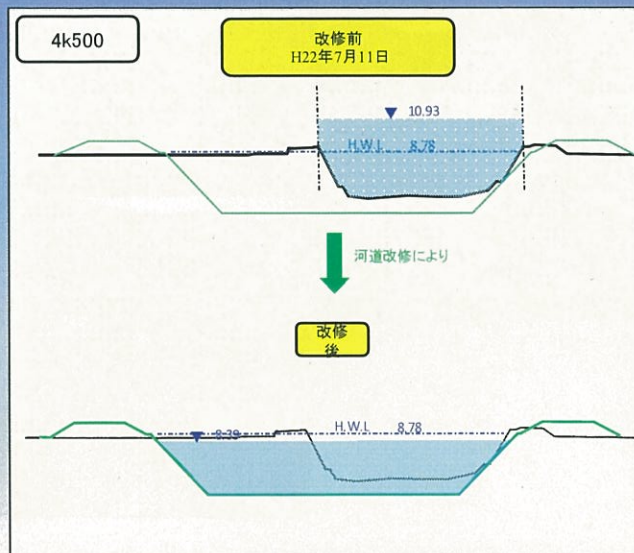
2k100右岸

浸水状況 (平成22年7月洪水)



4k800右岸 深山橋付近

5. 改修の必要性



断面を拡幅することにより河川水位は低下し、洪水流量を流下しうる断面を確保します。

6. 佐護川平面図



7. 佐護川現況写真

大岩橋より下流



1k700付近



8. 佐護川現況写真

通学橋より下流



春日橋 (国道橋)より上流



大石原橋より上流



仁田ノ内橋より上流



9. B/C算定結果

- ① 総便益 (B) : 21, 194 (百万円)
- ② 総費用 (C) : 12, 521 (百万円)
- ③ 費用便益比 (B/C) : 1.69 (①/②)

事業継続

【事業の経緯】

別添資料1

河川-3 時津川総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H10)	事業採択後10年経過	S63	H16	29.3	2.38	改修延長 L=940m 河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替、堰改築等
第1回審議 (H15)	再評価後5年経過	S63	H21	37.0	11.57	改修延長 L=940m 河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替、堰改築等
報告 (H19)	整備計画策定	S63	H25	37.0	8.96	改修延長 L=940m(2,700m) 河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替、堰改築等
第2回審議 (H23)	再評価後5年経過	S63	H27	47.1	7.69	改修延長 L=940m 河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替、堰改築等
第3回審議 (H27)	適宜(整備計画の予算化)	S63	H40	69.9	5.75	改修延長 L=2,700m 河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替、堰改築等

チェックリストによる河川事業の再評価項目

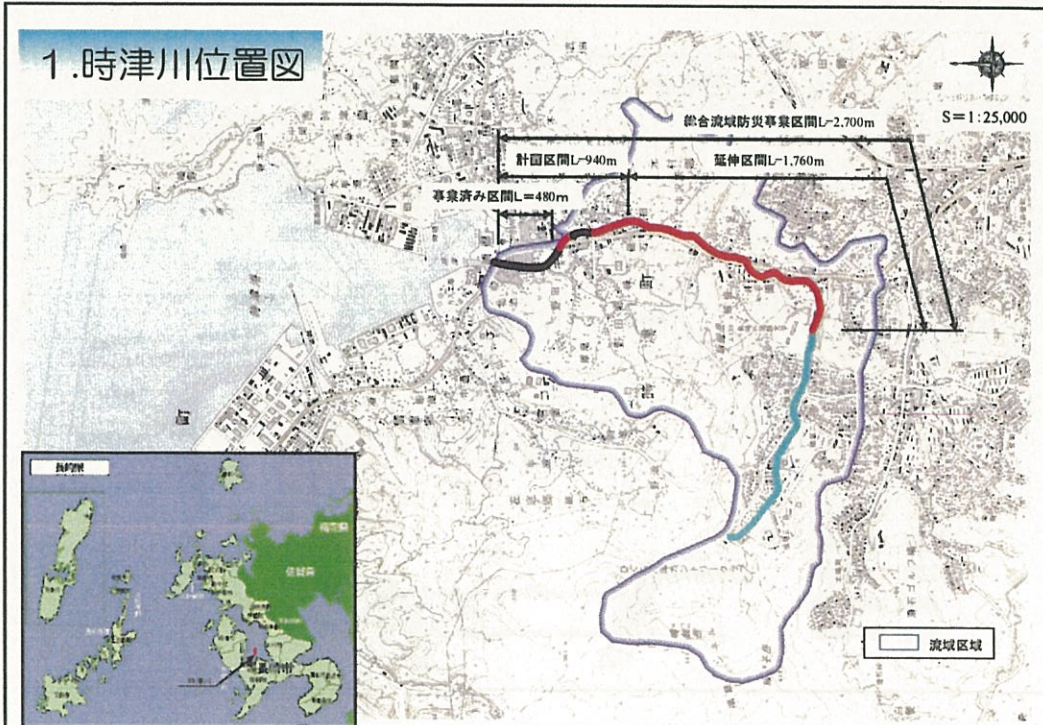
河川名	時津川	事業名	総合流域防災	事業区間	国道206号時津橋～長崎学院橋上流 改修延長L=2,700m
再評価の実施理由		適宜(社会経済情勢の変化)			
未着工或いは事業が長期間要している理由		人家密集地における工事で、支障物件等が多く、移転交渉に時間を要しているため。			
事業内容	事業目的	洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する。			
	事業実施内容	河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替等			
	上位計画における位置づけ	長崎県長期総合計画2-2-4(自然災害のない安全な県土づくりの推進)			
事業の進捗状況	目標流量	160m ³ /s	治水安全度	1/100	
	事業採択年	昭和63年	用地着手年	昭和63年	工事着工年 昭和63年
	全体事業費(内用地費)	69.94億円 (9.41億円)	投資事業費(内用地費)	48.68億円(進捗率 70.0%) 8.92億円(進捗率 94.8%)	
	事業進捗状況	古川橋の上流までの約480m間の河道改修は完了している。			
	一連の整備効果の発現状況	河口から古川橋上流までの約480m間は、目標の流下能力を確保。			
事業に関する社会情勢等の変化	現状での課題	事業を促進し、早期完成を図る。(H40年度完成予定)			
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)				
	① 浸水戸数	: 640戸			
	② 農地浸水面積	: なし			
	③ 重要な公共施設等	: 町役場、公民館、郵便局、警察署、小学校1			
	④ 災害弱者関連施設	: 病院4、幼稚園1			
	⑤ その他	: 国道206号、国道207号			
	過去の災害実績				
	① 主な被災年	: 昭和57年7月			
	② 最大浸水戸数	: 650戸(昭和57年)			
③ 最大農地浸水面積	: 2.4ha(昭和57)				
④ 重要な公共施設等	: 町役場1、小学校1				
⑤ 災害弱者関連施設	: —				
⑥ その他	: —				
災害発生の危険度					
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合	: 約25%				
② 現況の治水安全度	: 1/2				
地域の状況	① 地域開発の状況	: 中流部では、時津中央第二土地区画整理事業が平成41年度完成を目指し進められており、人口は増加傾向にある。			
	② 地域の協力体制	: 時津町を主体とした協力を得ている。			
	③ 関連事業との整合性の変化	: 特になし			
	④ 地域の事業に対する社会的評価	: 洪水氾濫被害に対する安全の確保のため、河川改修事業の早期完成が望まれている。			
	⑤ 事業の状況	: 現在、古川橋架替工事中であり、事業実施区間940mから2700mに延伸することで、完成年度が平成27年度から平成47年度に延びた。			
費用対効果分析	「治水経済調査マニュアル(案)」の「治水事業の経済効果」に基き分析				
	総便益(B):	65,315 百万円			
	総費用(C):	11,500 百万円			
	B/C=	5.67			
再評価による今後の対応方針		見直し継続			

時津川 総合流域防災事業

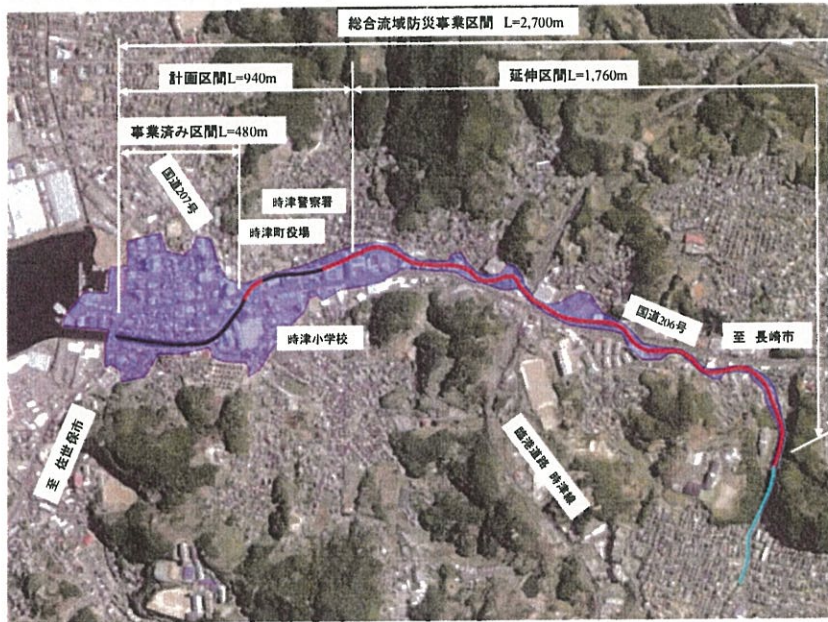
長崎県公共事業評価監視委員会



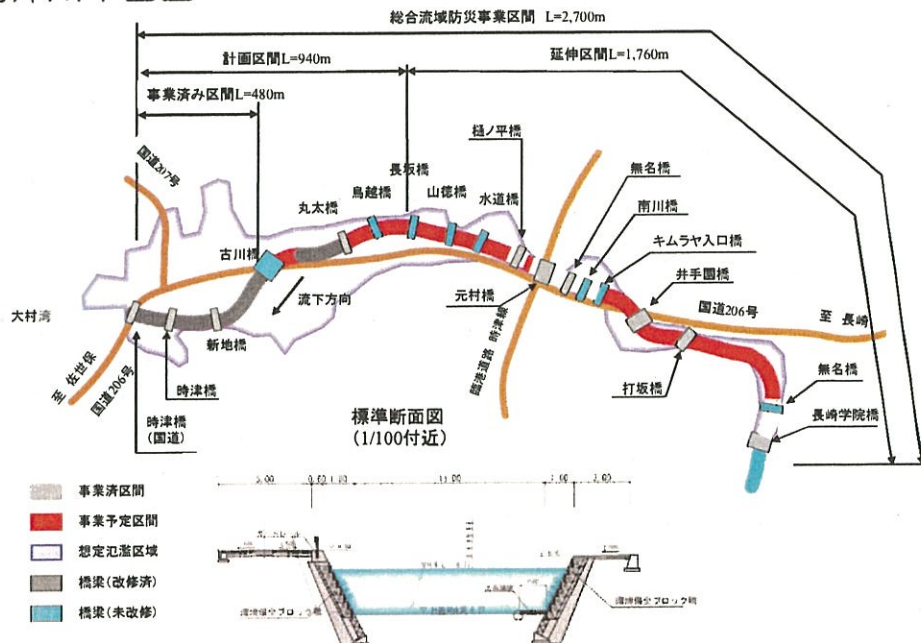
1. 時津川位置図



2.時津川全景写真



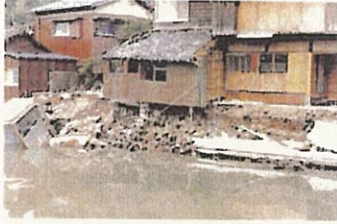
3.時津川平面図



4.時津川災害状況

昭和57年7月23日

▼堤防が崩れた時津川



▼陥没地があるため車を押し退す



平成26年7月3日

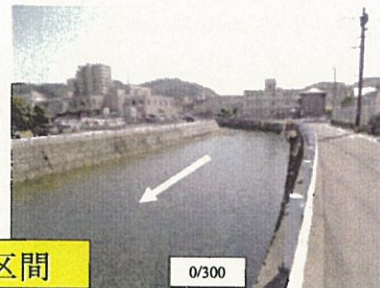
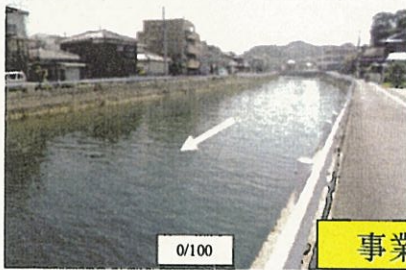


水害発生時の気象

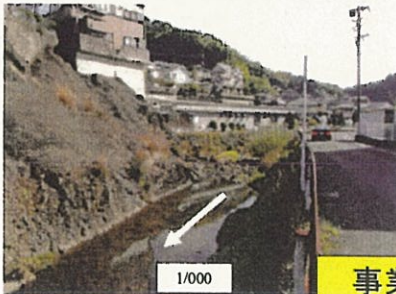
長崎県時津町 災害写真集より

年 月 日	日 雨 量(mm/日)	最大時間雨量(mm/h)	備 考
S57.7.23	463.0	142.0	農地災害4.2ha 浸水家屋棟数650戸

5.時津川現況写真



事業済み区間



事業予定区間

6.B/C算定結果

- ① 総便益 (B) : 65,315 (百万円)
- ② 総費用 (C) : 11,500 (百万円)
- ③ 費用便益比 (B/C) : 5.67 (①/②)



事業継続は妥当である

【事業の経緯】

別添資料1

河川-4 牟田川総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H12)	再評価後 10年経過	H3	H25	45.2	1.17	改修延長 L=4,090m 河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替、堰改築等
第1回審議 (H17)	再評価後 5年経過	H3	H25	63.5	1.13	改修延長 L=4,090m 河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替、堰改築等
第2回審議 (H22)	再評価後 5年経過	H3	H27	59.2	1.21	改修延長 L=4,090m 河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替、堰改築等
第3回審議 (H27:今回)	再評価後 5年経過	H3	H30	61.5	1.14	改修延長 L=4,090m 河道拡幅、築堤、護岸整備、橋梁架替、堰改築等

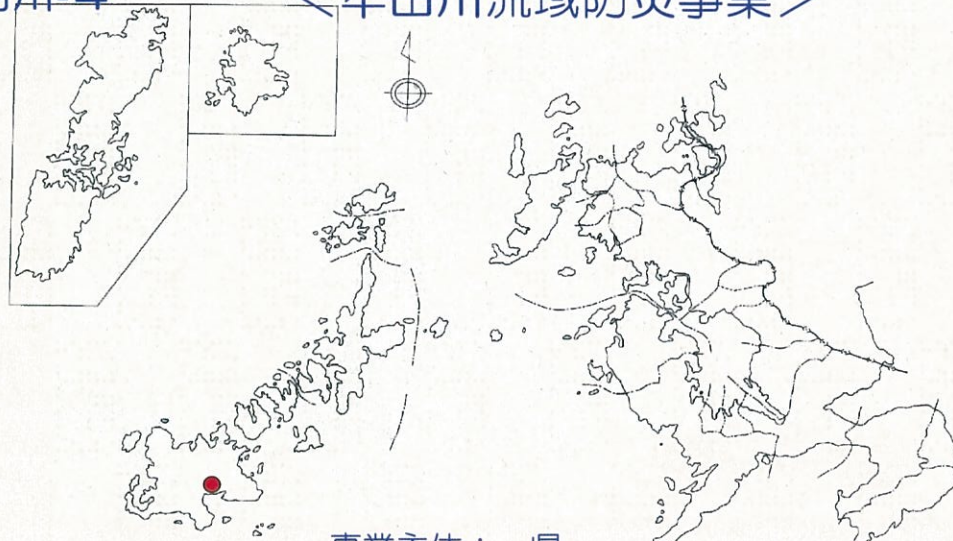
チェックリストによる河川事業の再評価項目

河川名	牟田川	事業名	総合流域防災	事業区間	五島市 福江川合流点～市道橋下流 改修延長L= 4,090m		
再評価の実施理由		再評価後5年経過(再々評価)					
未着工或いは事業が長期間要している理由		改修延長が長いうえ、橋梁、床止め、堰といった構造物が多いことと、想定以上に地盤が悪いことから軟弱地盤対策費を含む事業内容の増加のため。					
事業内容	事業目的	洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する。					
	事業実施内容	河床掘削、護岸整備及び橋梁架替え					
	上位計画における位置づけ	長崎県長期総合計画2-2-4(自然災害のない安全な県土づくりの推進)					
事業の進捗状況	目標流量	110m ³ /s	治水安全度	1/30年			
	事業採択年	平成3年	用地着手年	平成4年	工事着工年	平成6年	
	全体事業費(内用地費)	61.5億円 (8.0億円)	投資事業費(内用地費)	55.1億円(進捗率 90.0%) 8.0億円(進捗率 100.0%)			
	事業進捗状況	福江川合流点から牟田1号橋までの約2,460mが完成。					
	一連の整備効果の発現状況	福江川合流点から上河橋上流までが改修されたことで、幹線道路の福江富江線の浸水被害がなくなった。					
事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	事業を促進し、早期完成を図る。(H30年度完成予定)					
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)	① 浸水戸数 : 11戸 ② 農地浸水面積 : 79.1ha ③ 重要な公共施設等 : 特になし ④ 災害弱者関連施設 : 特になし ⑤ その他 : 主要地方道 福江・富江線					
	過去の災害実績	① 主な被災年 : 昭和42年、57年、60年、62年、63年、平成元年、平成3年 ② 最大浸水戸数 : 76戸(昭和42年7月) ③ 最大農地浸水面積 : 103ha(昭和42年7月) ④ 重要な公共施設等 : 不明 ⑤ 災害弱者関連施設 : 不明 ⑥ その他 : 不明					
	災害発生の危険度	① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合 : 計画高水流量40m ³ /sに対し16% ② 現況の治水安全度 : 1/2未満					
	地域の状況	① 地域開発の状況	特に主だった開発はなく、人口の変化もあまりない。				
		② 地域の協力体制	五島市を主体とした協力を得ている。				
		③ 関連事業との整合性の変化	上河橋より上流域において、河道改修に合わせた圃場整備計画が策定中である。				
		④ 地域の事業に対する社会的評価	洪水氾濫被害に対する安全の確保のため、河川改修事業の早期完成が望まれている。				
		⑤ 事業の状況	事業費増の理由:当初想定していた以上に地盤が軟弱であったため。工期延長の理由:上記理由及び改修区間が長く構造物が多いため。				
	費用対効果分析	「治水経済調査マニュアル(案):平成17年4月」に基づき分析					
	総便益(B):	13,553 百万円					
	総費用(C):	11,856 百万円					
	B/C=	1.14					
再評価による今後の対応方針		事業継続					

一括審議

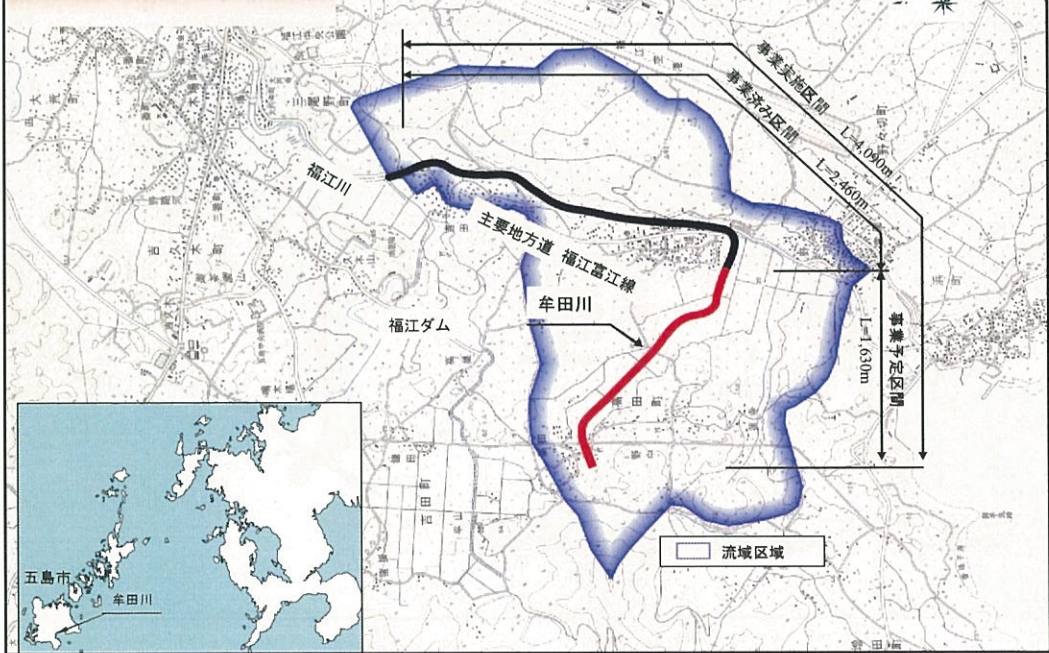
河川-4

<牟田川流域防災事業>

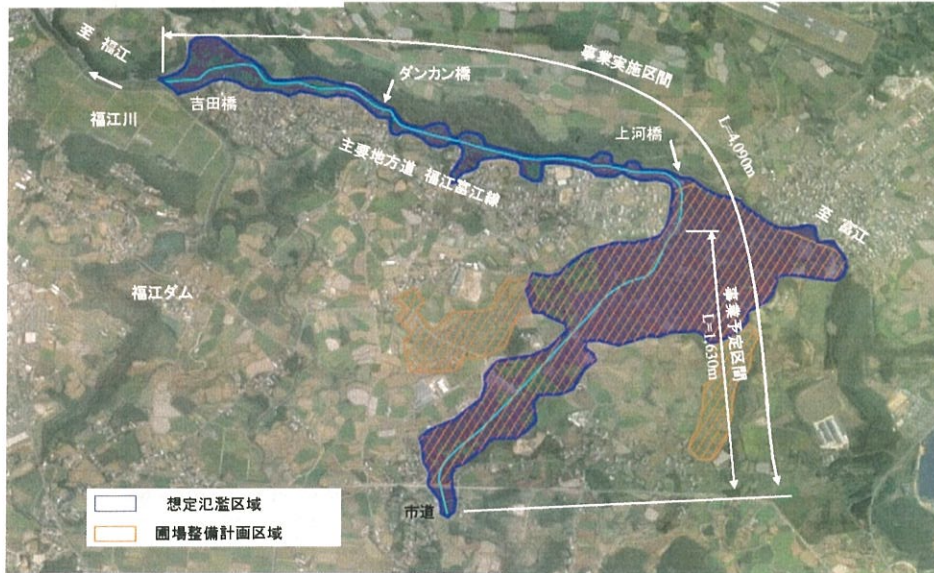


事業主体： 県
事業箇所： 五島市

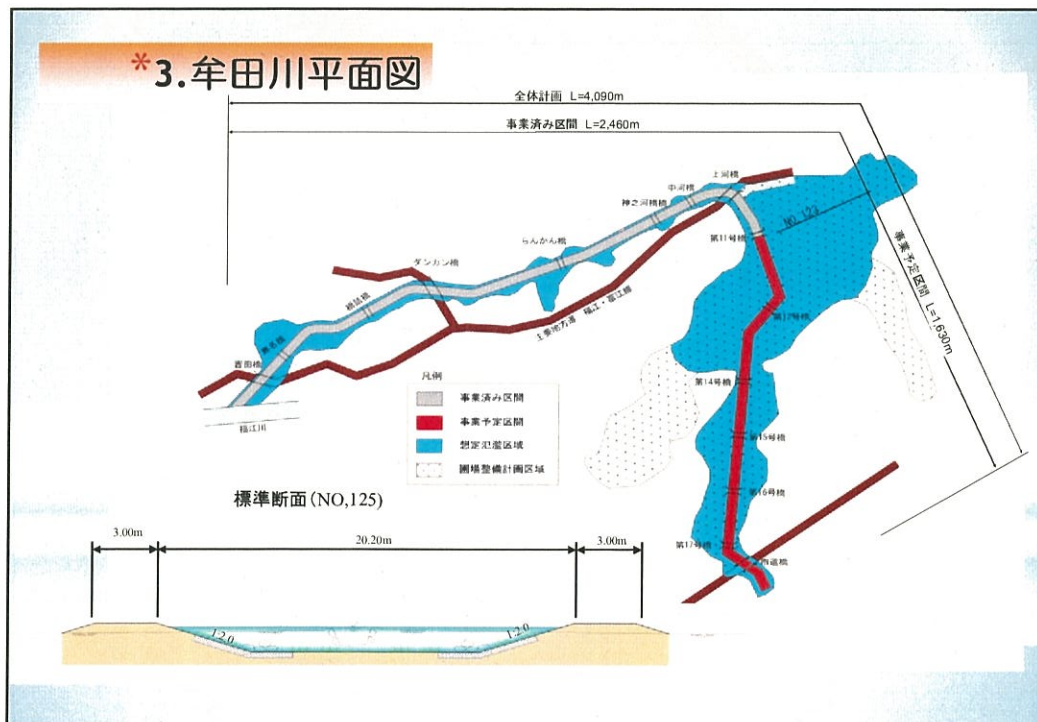
* 1. 牟田川位置図



* 2. 牟田川全景写真



* 3. 牟田川平面図



【事業の経緯】

別添資料1

河川-5 都市基盤河川改修事業(大井手川)の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初	—	H13	H23	51.0	2.49	改修延長 L=2,150m 河道拡幅、河床掘削、護岸 整備、橋梁架替等
第1回審議 (H22)	事業採択後 10年経過	H13	H30	49.8	2.54	改修延長 L=2,150m 河道拡幅、河床掘削、護岸 整備、橋梁架替等
第2回審議 (H27:今回)	再評価後 5年経過	H13	H35	25.0	4.79	改修延長 L=2,150m 河道拡幅、河床掘削、護岸 整備、橋梁架替等

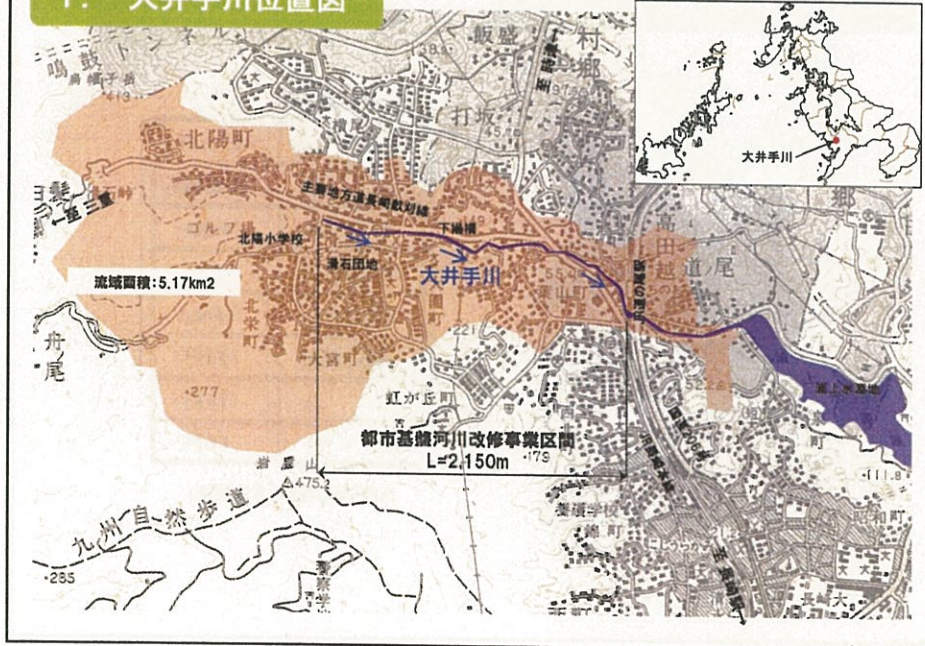
チェックリストによる河川事業再評価項目

河川名	大井手川	事業名	都市基盤河川改修	事業区間	上道の尾橋～寺川内橋 L=2,150m
再評価の実施理由	再評価後5年経過				
未着工或いは事業が長期間要している理由		住宅密集地における事業であり、他事業と調整を図りながらの進捗を余儀なくされるため。			
事業内容	事業目的	治水安全性の向上を図るとともに、環境に配慮した親水性のある河川整備を行う。			
	事業実施内容	河道拡幅、河床掘削、護岸整備等			
	上位計画における位置づけ	長崎市第四次総合計画（災害に強いまちづくり）			
	目標流量	100m ³	治水安全度	1/10	
事業の進捗状況	事業採択年	平成13年度	用地着手年	平成15年度	工事着工年 平成14年度
	全体事業費	25.0 億円	投資事業費	7.1 億円	(進捗率 28.4%)
	(内用地費)	8.8 億円	(内用地費)	2.4 億円	(進捗率 27.3%)
	事業進捗状況	上道の尾橋から下揚橋下流までの1250mの河床掘削等による整備が完了。			
	一連の整備効果の発現状況	整備済区間については、目標流量を流す能力を有している。			
事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	事業を促進し、早期完成を目指す（平成35年度完成予定）			
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)				
	① 浸水戸数	: 105戸			
	② 農地浸水面積	: -			
	③ 重要な公共施設等	: 大園町県営住宅2棟、県営滑石団地3棟			
	④ 災害弱者関連施設	: 特になし			
	⑤ その他	: 国道206号			
	過去の災害実績				
	① 主な被災年	: 昭和57年			
	② 最大浸水戸数	: 233戸			
③ 最大農地浸水面積	: 不明				
④ 重要な公共施設等	: 不明				
⑤ 災害弱者関連施設	: 不明				
⑥ その他	: 不明				
災害発生の危険度					
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合	: 約60%				
② 現況の治水安全度	: 1/2程度				
地域の状況	① 地域開発の状況	: 公営住宅の建替事業が進んでいる。			
	② 地域の協力体制	: 事業に理解があり、協力的である。			
	③ 関連事業との整合性の変化	: 河川と並走する道路の拡幅工事が計画されており、隣接する区間においては調整を図り一体的に整備する必要がある。			
	④ 地域の事業に対する社会的評価	: 洪水氾濫被害に対する安全確保のための改修事業であり、早期完成が望まれている。			
	⑤ 事業の状況	: 河道計画及び用地買収面積の見直しにより事業費が減となった。また、関連事業とあわせた地元調整等に時間を要したため、完成年度が平成30年度から平成35年度に延びた。			
費用対効果分析	「治水経済調査マニュアル(案)」に基づき分析				
	総便益(B)	:	12,384.0	百万円	
	総費用(C)	:	2,586.7	百万円	
	B/C=		4.79		
再評価による今後の対応方針	事業継続				

大井手川 都市基盤河川改修事業

長崎県公共事業評価監視委員会

1. 大井手川位置図



2. 大井手川全景写真



[凡例]
 氾濫想定範囲

3. 大井手川の水害状況

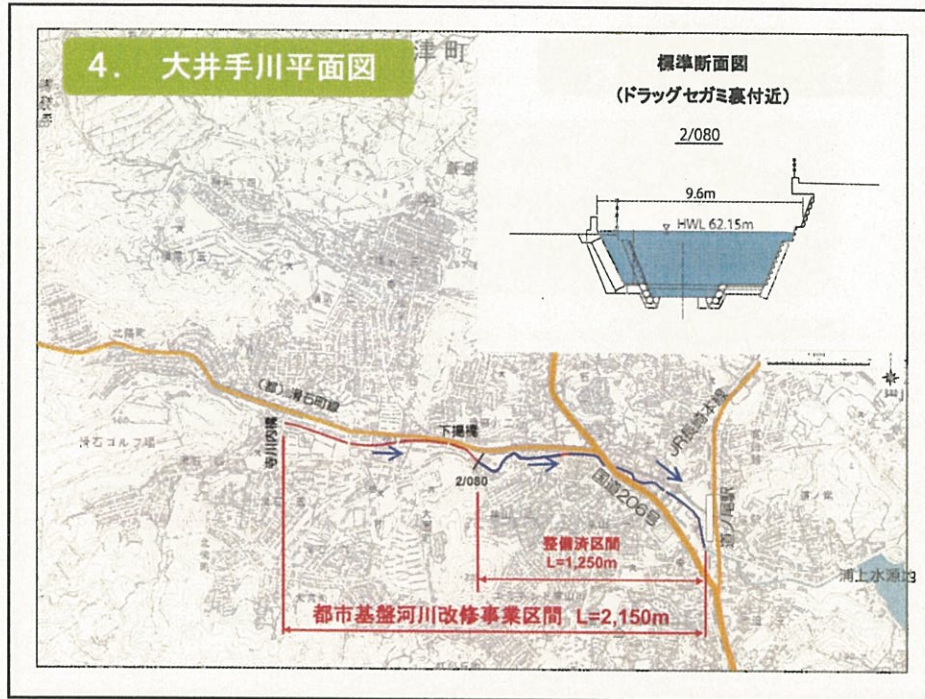


被害状況 (S57.7.24 滑石2丁目8番地先)

既往洪水実績

発生年月日	S57.7.23
起 因	梅雨前線
日 雨 量	448mm
時間雨量	121mm
浸水面積	5.4ha
浸水家屋	233戸
床 上	126戸
床 下	68戸

出典「長崎市7.23大水害誌」



6. 事業費比較

	H22	H27
総事業費	約50億円	約25億円 (△25億円)
用地補償費	約28億円	約9億円 (△19億円)

【茶の木橋付近】



前回検討時



今回検討時

7. B/C算定結果

- ① 総便益 (B) : 12,384 (百万円)
- ② 総費用 (C) : 2,587 (百万円)
- ③ 費用便益比 (B/C) : 4.79 (①/②)

事業継続